

～絵本紹介～

3歳以上児の先生たちのおすすめの絵本を紹介します。

神田 円香先生

題名『わたしのおうち』 作:かんざわ としこ 絵:やまわき ゆりこ

出版社:あかね書房

この本は私が幼稚園に通っていた頃から大好きな絵本です。
主人公の「わたし」と自分を重ねて、このお家でどんなことをしようかと想像を膨らませながら楽しんでいました。本当に自分だけの素敵な空間にいるような気持ちになれてきっと、この段ボールで作るお家に憧れてしまいます！
実際に段ボールのお家を作ってみるのもいいかもしれませんね！



小林 知子先生

題名『いそがしいよる』 絵・作:さとう わきこ

出版社:福音館書店

いつも元気なばばあちゃんシリーズの1冊です。
ある夜、ばばあちゃんは星空を眺めながら寝ようとベッドを外に運び出します。そこから、あれやこれやと運び出し、とうとう家中の家具を運び出してしまいます。そして、しまいには、、、。ばばあちゃんらしいちよっとお茶目な結末が待っています！
星空の中、忙しく動き回るばばあちゃんのイラストを見ているだけでも、なんだか楽しくなる絵本です。
シリーズものの絵本を読むと、子どもたちは同じシリーズの他のお話を探すことも楽しみにしますね。絵本への興味が広がるきっかけにもなると思います。



林 京子先生

題名『コンガラガッチ どっちにすすむ？の本』 作:ユーフラテス

出版社:小学館

本をひらくと主人公「いぐら」との冒険の旅がはじまります。「いぐら」は「いるか」と「もぐら」がコンガラガッチで生まれた生き物。黒塗りのシルエットに目だけキョロキョロの不思議な生き物です。この物語は自分で考えて進む方向を決め、指で道をたどりながら前へ前へと進んでいきます。お昼ご飯は？あつあつハンバーグ？それともさくさくとんかつ？進め方は「今の気分」あたりもはずれありません。決め方・気分次第で物語は変わってきます。この絵本で何度も楽しんだ後、今度は自分たちでも旅のゲームを作って遊び始める子どもが多くいます。お兄ちゃんと公園で遊ぶ？それとも妹とお家で遊ぶ？夕ご飯食べたいものは？カレーライス？しゅうまい？など自分たちの生活の中から物語を作り、友達の考えを聞いたり自分の気持ちを話したりしながらゲームは仕上がっていきます。次から次へと次の展開を楽しむことのできる絵本です。他にもシリーズ化されています!!

